

## 部会内組織が経営行動に与える影響に関する研究 —JA 愛知みなみ輪菊部会を対象に—

石塚 修敬（フィールド社会技術学分野）

### 【目的】

本研究は、全国一の輪菊産地である愛知県田原市を管区とする JA 愛知みなみ輪菊部会内部に組織されている販売方針の異なる 3 チーム (MAX, STAR, SKY) に着目し、チームにおける“集団”の方針が輪菊農家という“個”の方針（経営行動）に与える影響を明らかにする。

### 【方法】

輪菊農家 6 名 (A~F) と JA 職員 2 名 (G, H) にヒアリング調査を実施し自身の経営及び部会に関する課題を抽出し、個と集団の論理を軸に分析を行った。

### 【分析結果】

チーム概況について、年間契約重視の MAX は出荷施設の問題でこれ以上生産者を受入れられない中で生産量の維持及び増加に取組まなければならない。STAR は当初の目標を既に超えている年間契約を更に増やすか否かの合意形成と出荷時期の調整が課題である。自由な作付を行い、他 2 チームと異なり個選出荷者も居る SKY は役員制が無く言わば個人のチームである。

MAX 所属 A~C は 2,500~5,560 坪の大規模経営で、特に B, C は更なる規模拡大志向を持っているが、3 者とも経営状況は良好とは言えない。つまり MAX は集団の課題と個の志向が互いに一致し組織力の強さが伺えるが、課題解決に向けた経営行動の限界が近い。STAR 所属 D, E と SKY 所属 F は規模 1,000 坪台で規模安定志向を持っている。D, E はチームの生産量増加の必要性を認識しつつも、自身の経営行動には反映させておらず、この点と合意形成が課題になっている点で組織力は弱い。F はチームの販売方針と自身の生産方針が対立したため MAX から SKY へ移動した。SKY は具体的な販売方針が無いため影響は与えず、組織力も極めて弱い。この方針の無さを F は問題視しているが SKY 全体でこれが共有されるかは定かではない。

### 【結論】

以上、チーム毎に集団から個への影響の程度が明らかになったが、この差異は部会よりもチームにおいて自主性が強く発揮されているためと考えられる。そしてチーム制の意義は、内部での経営異質化による利害対立をチーム移動で解消可能である事、これにより個別性向の実現が可能である事、移動後も部会に留まれるため市場出荷で不利にはならない事の 3 点である。ただし、MAX が受入れ不可能である現在、チーム間移動が拡大志向を実現させる効果は小さく、安定志向への効果しか期待できない。この為、MAX に残れる拡大志向を持つ農家への生産依存と彼らの疲弊が強まる構造になっており、産地全体の不安要素でもある。

今後の研究課題は、規模上限及び適正規模を明らかにするべく「規模論」による整理と、チーム毎の「組織力の規定要因」の明確化と、チームの自主性を強めているからこそ問われる「農協の役割」である。